

「遊び」がありますか

朝読書の様子を見に行きました。邪魔をしてはいけな思
い、出入り口から学級全体を見るようにしています。すぐに気
づくのが、読書以外をしている生徒の姿です。全員が同じ方向
を向き、同じ格好をしているように見えますが、やはり違うこ
とをやっているのわかるものです。宿題らしきものをやってい
たり、参考書を広げたりしていると、動きや視線の違いが際立
ちます。たった十分の朝読書にさえ集中できないことが心配に
なります。

私の知人の娘の話です。東京外国語大学フランス語学科に現
役合格しました。外国語大学ですので、とりわけ外国語につい
ては興味も力も人一倍持ち合わせていることが必要です。これ
だけ聞くと、「きつと一分一秒も惜しんで勉強したのだろうな
あ」「高校は進学校に入って必死にやったのではないか」など
と思ってしまう。

私はその知人とお酒を飲んだ時に、彼女のことについて尋ね
てみました。酒の力も手伝って、彼はいろいろなことを教えて
くれました。

中学卒業後については、俗に言う進学校ではなく、地元の子
が通いやすようにと設置された県立高校を選びました。その高
校はずいぶん前に廃校になり、今はありません。当時、生徒数
は決して多くなく、普通科高校でありながら、進学では目を見
張るような実績を上げている学校ではありませんでした。

進学理由は、勉強以外にやりたいことがあるから。単純な理
由です。地元の学校ですので、通学にもさほど時間がかかりま
せん。その分、勉強以外のことに時間を充てていたようです。
母親に代って家事も毎日やっていたとのこと。勉強を言い訳に
することなく、高校生として、娘として、そして、受験生とし
てやるべきことを、確実にやっていたようです。

高校の雰囲気も、受験一辺倒ではありませんでした。先ほど
も書いたように、進学については大きな成果を上げてはいな
かったのですが、彼女にとってそれは関係なかったようです。
やるべきことを、周りに惑わされることなく、粛々（しゆく
しゆく）と取り組んだことが、大きな成果をもたらしたのだと
言えます。

車のブレーキには、「遊び」というものが大切です。皆さん
はまだ運転ができませんので、家族のどなたかに尋ねてみてく
ださいね。ブレーキは「遊び」があるから、ペダルを安心して
踏み込めます。そして、安全に車を止めることができます。読
書を楽しみましょうよ。読書に心が許せるゆとりある状態でな
いと、勉強の手応えは得られないかもしれせんよ。